

岐阜県立岐阜工業高等学校

学校長 米澤 信雄

学校住所 岐阜県羽島郡笠松町常盤町1700 電話058-387-4141

- 1 会の名称 学校評議委員会
- 2 会の構成
委員 恩田 秀比良 株式会社オンダ製作所 専務
川島 裕美 地域住民代表
佐々木 伸幸 育友会会長
南谷 清美 地域住民代表
藤吉 浩一 名古屋鉄道株式会社 笠松駅長
(委員名は五十音順)
学校側 米澤 信雄 校長 森 保 教務主任
安田 恭章 副校長 宮浦 英夫 生徒指導部長
土屋 義弘 事務部長 本田 悟志 進路指導部長
高橋 信行 教頭 加藤 嘉彦 工業教育部長
高木 喜弘 教頭
- 3 会の目的 学校運営等について学校外の有識者等から幅広く意見を聞き、本校教育の改善・充実に資するとともに、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを目指す。
- 4 会の開催 平成24年2月14日（火） 16:00~17:00 岐阜工業高等学校 校長室
- 5 会の概要

主テーマ 工業高校に期待するもの

生徒研究発表会の参観

各学科3年生の代表が課題研究などで取り組んできた成果を全校生徒の前で発表する生徒研究発表会を参観していただいた。生徒の熱の入った発表に耳を傾けていただきました。発表会には、企業や大学、中学校から50名の参観をいただいた。



感想 (合評会より抜粋)

・わくわく楽しかった。技術と生活の接点を考えて、生活シーンに生かす見られたのが良かった。地元の小学校に設置したスロープが好評であった。CGが効果的であった。

・技能検定では民間でやってないことにチャレンジした。3つくらい取ると役に立つ3級が切っ掛けで社会に出て残り2つを取ればよい。会社で切磋琢磨してほしい。

・多く出席していただきありがとうございました。一生懸命やっているのが見られたことを他の保護者にも伝えている。校訓の元、一生懸命である。机上の知識は大切だが実習で覚えた事は実になるので実習の取り組みを進めて、地域にもどんどん出て行ってほしい。

・工業高校は初めてである。面白い楽しい発表であった。高校生の考えた事もバカにできない。“泡”発表の発想が驚きであった。今、日本のメーカーが壁にぶつかっている。それを解決する可能性を感じた。

・地域貢献の発表があったが、少子化、地方の活力となり得る。デザインと建築等複合して異分野の組み合わせを考えたら。

・8つの発表があった。会社の関係で建築工学の発表に興味を持った。生徒が知恵を出し合って、問題を解決して結果を出したのが良かった。

・興味のある対応で、今の高校生の取り組み方を知ることが出来た。個人的にはそのグループと話が出来たら良かった。

・S39年卒 母校に来られた。50年前と違い、生徒は一生懸命に取り組んでいる。ものを作るには計画をして進める生産管理の考え方を取り入れれば、よい方向に行く。

・全体的に良かった。テクノボランティア、オモチャを直した。学科の内容と違ったがやった。人間力がある。オモチャを直すことで、依頼者も生徒もうれしかっただろう。技術+人間力を育ててほしい。



学校の現状について 報告

- ・全国的に就職事情が厳しい中、本校への求人は例年並みをいただくことができた。
- ・高校生の就職内定は70%よくても80%といわれる中で、本校は1月中旬には就職希望者の内定100%を達成できた。
- ・各分掌の自己評価が提出されている。次年度にどのように繋がっていくかが大事である。
- ・本日の発表会も多々改善の余地はあるが、多くの来賓の方を迎えてそれなりに評価できると思う。

今後に期待するもの

- ・自己評価のABがついている物に関しては是非とも継続してやっていただきたい。
- ・文武両道はもちろん大事だが、危機管理教育も大切である。東日本大震災により、災害が身近なものとなった。この地区でも幾つかの大災害が予想されている。
- ・メールマガジン等で情報を流してもらっているが、災害時に家族とどう連絡をとるかが重要だ。連絡方法や安否確認のシステムを構築する必要がある。
- ・危機管理は自力でできること、考えられることは全てやっておかないといけない。後からああしておけばよかったは通用しない時代になった。思い切り振っての空振り三振ならまだいいが、見逃しの三振は許されない。
- ・ウィークポイントを見つけたら即座に対応して欲しい。自家発電や井戸は高校にも必要なのでは

ないか。生徒から家庭でいらぬ綺麗なタオルや毛布を集めておくというのはどうか。

- ・木曾川の氾濫や、鉄道が停まるときの判断材料がない。経験的に判断するしかない。しかし、集中豪雨の様なことが他地区で起こって、影響が笠松に出ることもあり、判断が難しくなっている。いろいろな方法での情報収集が大事である。

- ・生徒研究発表を聞いて、校長の教育方針が生徒まで良く浸透していることがわかった。生徒たちは岐阜工で学んだことを生かして、自分で工夫し、地域にどう貢献するかをよく考えていた。

- ・協調性やチームを組んでやることが大事であり、検定も特定なものだけでなく幅広く受けることが大切だ。

- ・事業継続、作業継続するためにはどうするかを考える事が大事である。ありがとうと言ってもらえる商品やサービスを作ることが大事である。ありがとうと言ってもらえれば、がんばれるし、モチベーションも上がり、継続に繋がっていく。

- ・高校も地元で活躍する生徒の輩出を継続して行って欲しい。

- ・3年前に比べると、地域との絆やつながりを大事にするようになってきたと思う。震災の時などに若い力が活躍するようにして欲しい。

- ・一部の子（部活でレギュラークラスの子や検定に受かるような子）だけでなく、落ちこぼれに近いような子にも声をかけて欲しい。